

NPO やすらぎの郷 いいの

安心して住み続けられるまちをつくりたい！



デデッポッポ（山鳩の鳴き声）が聞けなくなった山里から

我が家の台所の窓を開けると四階建ての老人ホームが見える。ホームでは今夜もおいしい食事が出て淡い採光の星座のようにとる窓のあかり。我が家の8人家族の流しは汚れ食器満杯で私の出番も満杯。私は手を休めて ‘窓のむこうもこちらも両方幸せ’ とつぶやく。今は“三途の川を渡るのもクルーズ船だ”と風刺画で見た。人生勉強まだまだ続く。

私の桑仙人公園には今年も菩提樹の花が咲き…花暦は巡る…

賛助会員 阿曾 十喜子（写真・文）

みんなの広場



ゆったりのんびり介護を 心がけて

義母の介護を始めて約3年になります。

私が普段心がけているのは、義母のペースに合わせる事です。膝が痛いのでゆっくりしか歩けません。通院等出かける時は、倍の時間を見込んで準備するようにしています。

又、元々弱視で、最近耳も遠くなったので、大きい声で、分かり易いように短い言葉で、ゆっくり話すようにしています。不安そうな顔をする時がありますが、状況が把握できると、落ち着くようです。

義母は、手を貸してあげると、良く“ありがとう”という言葉を使います。言われると、とても嬉しくなる言葉です。私も見習って、多く使うようになりました。義母は、私の3人の子供達の面倒を良くみてくれて、とても感謝しています。これからは、出来る限りの恩返しをしたいと思っています。

心にゆとりを持ち、寄り添い、急がずのんびりとお世話をしたいと思っています。

<利用者家族 佐藤 千加子>

介護支援専門員としても

今まで事務の仕事と生活支援事業のお手伝いをさせて頂いていましたが、今度から介護支援専門員(ケアマネジャー)としても活動させて頂くこととなりました。

ご利用者様やご家族様の思いを支えられるよう、少しずつではありますが、経験を積み重ね様々なことを学び、様々な事業所との連携や意見調整を図り、その人らしい暮らしができるようにと思っています。

地域の力の一員となれるよう頑張りたいと思いますので、よろしく願います。

<職員 高橋 満子>

人と人とのつながりを感じて

私は、介護の仕事に就きまだ3ヶ月ですが、初めて利用者さんに「ありがとう」と言われとても感動しました。

介護の仕事は、よく大変だと聞きますが、人と人とのつながりを感じる仕事だと思っています。これからも、自分の能力を過信せず、利用者の方々やご家族の方々の言葉に耳を傾け寄り添い、先輩ヘルパーのご指導やご意見を聞きながら、利用者の方々安心して在宅で過ごせるお手伝いをしていきたいと思っています。

<ヘルパー 佐藤 真理子>

左 職員紹介
右 高橋 満子
佐藤 真理子



令和元年度 通常総会が開催されました

5月22日(水)、えびすやさんにて「NPO 法人やすらぎの郷いいの」今年度通常総会が開催されました。

伊藤理事長から、始めに本日への総会及び佐藤信一さんを偲ぶ会出席のお礼。そして「米中の経済戦争、10月からの消費税10%と危惧される状況がある。当NPOの実績が前年度20%増と順調な結果を出すことができました。中心的な事業である介護事業の活動で職員の奮闘が大きい。今後もヘルパーの確保をすすめながら期待に応える活動をしていきたい」との挨拶がありました。

議長に齋藤孝夫さんを選出し、会員37名中、出席16名、委任状提出16名、合計32名の参加により、議案6件(平成30年度事業報告、同決算、令和元年度事業計画、同収支予算、役員選出)について、それぞれ報告・提案及び質疑応答ののち、全議案が承認されました。平成30年度決算概要については、別紙参照。

質疑では、「会費収入が減っている

のはなぜか。会費はなんで出すのか理解されていないのではないか」に対して「会費の意味については監査でも話が出た。会員になって頂く時の説明不足、前事務局長の人脈で会員になった方もいる。何のメリットがあるのかとの質問が賛助会員からある。出資金のような捉え方の方もいるのではないか」との応答がありました。また、「利点が浸透していないのでは」や「正会員は賛助会員とは違う。自覚を促してほしい」「会費を徴収しきれないのではないか。誰が集めるのがが曖昧なので、班編成にしてみてもどうか」などの意見がありました。

あらためて会員の皆様に

当NPOは、この地域に身近に相談できるヘルパー事業所や生活支援の事業所をつくりたいということがきっかけで、平成25年に設立されました。設立趣意は「安心して住み続けられるまちをつくりたい!」です。

この地域の中で、できるだけ多くの方にこの趣旨をご理解いただき、賛同者を増やし、助け合い活動をしていくながら、その実現をめざしていきたいと考えております。当法人以外の機関や住民の方とも連携を深めていきます。今後の活動や会費について、ご意見を頂戴できればと存じます。



<安心して住み続けられるまち リレートーク その6 >



インド、ブッダガヤの話

インドのブッダガヤは釈迦が悟りを開いた所で、世界中から敬虔な仏教徒が訪れます。

震災、原発事故の直後に私もここを訪れました。6月から雨季になりますが、5月は乾季の末で、40℃を越す暑さが続いていました。

早朝に寺院を参拝し、般若心経を読誦した後、バラナシに向かいました。ガンジス川東岸ではヒンズー教の人々が祈りを捧げながら沐浴する光景が印象的でした。



後日ブッダガヤを案内してくれた兄弟が来日した時、仏蹟巡りの道すがら見た、裸足、襤褸、不潔な子供達の光景について話しました。古くからの身分制度の中で生きる、農村の子供達は、貧困のみならず、乾季には飲み水さえなく、命を落として

いくとの事でした。井戸を掘れば少しは役に立てるかもしれないの思いで、2014年から、ブッダガヤに在住のラン、サントス兄弟と提携して、井戸を掘りはじめました。

5年で25本の井戸を掘りました。今年、2019年1月に状況を見てきました。村の人々の喜ぶ顔が印象的でした。

それにしても普通の日なのになぜ子供たちがこんなに集まってきたの?と思いました。学校に通っていないのです。

帰国前に次は学校を作ろうという話になりました。

問題は山積していますが、ブッダガヤのボランティアの人たちと実現に向けて検討しています。

< 賛助会員 儀藤洋治(医師)

>

生活支援ボランティア・
ホームヘルパー募集!

NPO やすらぎの郷いいの

福島市飯野町字前川16

TEL 024-563-4804

ホームページ <http://yasuraginosatoiino.jp/>